

ポルトガル語圏共同体



CPLPとの連携で日系企業のビジネスチャンス拡大が期待される（リスボン、ブルームバーグ）

CPLP加盟国 (2017年1月現在)	
加盟国	オブザーバー国
ポルトガル	日本
ブラジル	ジョージア
東ティモール	ハンガリー
アンゴラ	チェコ
モザンビーク	スロバキア
カーボヴェルデ	モーリシャス
ギニアビサウ	ナミビア
赤道ギニア	セネガル
サントメ・プリンシペ	トルコ
	ウルグアイ

シルヴェイラ事務総長は3月20日の週に日本入りする方向で最終調整中。まず関西の大

ブラジルやアンゴラなどポルトガル語を話す国の協力組織「ポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）」のマリア・トロウオアター・シルヴェイラ事務総長が、3月中旬に来日する。日本の外務省や企業関係者と面談し、CPLP加盟国と連携したアフリカ市場開拓を呼びかける見通し。アフリカをめぐるのは、フランスや英国企業と組んだ事業展開が注目される中、ポルトガルも有力な協力先として日本企業に連携を訴える。

事務総長が
来月来日
日本企業に呼びかけ

アフリカ開拓で連携

6年にポルトガルの首都リスボンで正式発足し、現在の加盟国は9カ国。日本は14年の安倍晋三首相のポルトガル訪問を経て、同年にオブザーバー諸国として参加が認められた。日本政府は16年11月に東博史駐ポルトガル大使をCPLP常駐代表に任命している。

CPLPは医療や教育などでの開発協力や民間企業の海外進出支援が主な活動内容。ポルトガルの人口は約1000万人だが、世界には同言語を話す人が約2億3000万人いるとされる。CPLPを通じて、企業が複数国へ面展開してビジネスチャンスを広げることが期待されている。

日本企業の中では、新三平建設子会社で企業の海外進出コンサルティンクを手がけるS・NKGBS（東京都台東区）のポルトガル支店がCPLP商工会議所の会員となり、商機を探っている。